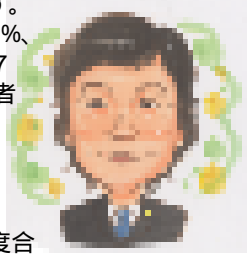


稲葉健二のコラム

今、国会やマスコミで取り上げられる機会が多い生活保護について書かせていただきます。この制度は憲法第25条に規定する理念にもとづき国が暮らしに困っている人に対して最低限度の生活を保障するための給付を行うものです。今テレビで取り上げられているのは、4年前から段階をおって削減された生活保護の母子加算の復活です。今年の4月からこの加算は打ち切りとなり、市議会でも発議で復活を言われる方もおります。ここで少し考えたいと思います。困っている方に給付することに異論はありませんし、応援させていただきます。しかし、逆に財源にも限りがあります。この不景気の影響もあり、生活保護を受給する方は年々増えています。平成17年度は前年比+3.2%、1000人に8.2人。18年度は前年比+3.8%、8.4人。19年度は前年比+5.2%、8.8人。20年度は前年比+7.9%、9.7人です。ほぼ100人に1人くらいの受給者になります。市川市の支給対象者数は、3285世帯4584人(2年3月現在)で支給額は国が約57億円、県が約3億円、市川市が約15億円で合計約75億となります。このような扶助費は年々増加傾向にあり財政は厳しい状況です。一部で貧困ビジネスといわれるような、生活保護者を食い物にしている人達もいるようです。大事なことは、ただ給付するのではなく困っている度合いをよく審査して、必要な人に必要な額を給付するシステムが必要ではないでしょうか。



市川市の情報コーナー

あんしんホットダイヤルができました。

お願いしていた、24時間365日あんしんホットダイヤルができました。休日や夜間でも24時間人が対応してくれるものです。医療関係の方が電話で相談してもらえます。フリーダイヤルですので費用はかかりません。あわてて救急車を呼ぶ前に相談をしたり、開いている病院を聞いたり活用して下さい。みなさんの協力で救急医療の現場も変わっていきます。ご協力をお願いします。



0120-241-596です。

市川市国民健康保険証が新しくなります。

市川市の国民健康保険証が8月1日より新しい保険証になります。昨年から一人一人の保険証になりました。今年は、一部改善されて、1氏名の部分が大きくなりました。2素材が紙からペットになりしっかりとします。3カラーが桃色から黄色に。4入れるカバーが厚くなりギャザーで強化されました。5高齢者受給者証をもらっていた方は、今まで別々に2枚でしたが、1枚に記載され一体化になりました。長寿(後期高齢者)制度は別の保険証となりますので気をつけて下さい。



見本

ちょっとコーナー

先日、この読者の方からお手紙と贈呈本をいただきました。このメッセージを見て地に足をつけた活動をされているとお言葉をいただきました。恐縮です。ある方から、今年の狂犬病予防注射に行って、新しい狂犬病予防注射済票(犬の首をデザインしたもの)をもらって、かわいくて今までつかなかったけど、犬につけて歩いていきますとのこと。ぜひ宣伝して下さいとお願いました。ある方から、このメッセージがとてもわかりやすいとお電話をいただきました。とても丁寧な話しぶりに感銘を受けてしまいました。これから頑張ります。ある方から市政への提言FAXをいただきました。真摯に受け止めて努力していきます。ご指摘の白幡神社のトイレの照明は修繕完了しております。(予定機の故障でした)

「意見・要望等お気軽にご相談！」



市川市議会議員

稲葉健二の 一言メッセージ

28

平成21年7月10日発行
稲葉健二事務所
272-0021
市川市八幡2-2-10
TEL 047-333-1783
FAX 047-334-1990
URL www.inaba-kenji.jp
MAIL kenjiinaba@aol.com

小学校との連携の特集です。

この議会の一般質問でもとり上げています「小学校との連携」を特集します。子どもたち(未就学児童)は、小学校に入学する前には、いろいろなところで過ごしてきます。公立幼稚園、私立幼稚園、公私認可保育所(園)、認可外保育所(園)その他の施設や家庭での保育など様々です。今回の指導要録というものは、幼稚園に幼児指導要録というものが、就学先の小学校へ送付されています。しかし、この指導要録を幼稚園の先生が書いても、小学校側で有効利用できていない例もありました。提出の時期が遅いので、1年生のクラス編成に活かしきれないというものや指導要録を見ると先入観を持ってしまったりと使用しないなどの声もありました。確かに一理あることと思いますが、子どもを判断するときに、一人の先生だけの意見で決め付けるのはあまり良いことではないと思います。子どもも先生も人間ですから相性もあり受け止め方も様々です。見方を変えることにより、子どもは大きく伸びたりします。担任が変わったことで勉強の方向も変わったりします。もちろんこれは先生が悪いというものではありません。幼稚園で見てきた子どもの良いところを小学校でより伸ばし、課題はみんなで応援する必要があると思います。そして、今年度から保育要録として保育所からも小学校へ子どもの記録が送付されることになりました。ここで問題なのは、保育所も様々です。認可保育所は情報などもおりやすく、協会などもあり研修や大会なども行っています。しかし、認可外の保育所は保育所同士の連携も取れずにいるところがほとんどです。このような所にいる子ども達も同じように連携をとれる制度でなければならないと思います。一部の子ども達は連携できて一部の子ども達は取り残されてはいけません。子どもに関わる情報なども含めて子ども達を支援して行くべきではないでしょうか。冒頭に書いたようにいろいろなところから来る子どもを小学校が、就学時検診などのときから把握して、核となり要録などを一つのツールとして連携ができれば素晴らしいと思います。

ここでお願いしたいことは、時代とともに私たちが育った教育環境も変わっています。その中で一部の保護者の方たちの目に余る言動や行動が目立っているところもあります。教育に関しての意見やわが子の判断を一方向的に相手へ押し付けてしまえば取りたい連携も難しくなります。一歩引いた形で子どもを見つめて、先生の話などを捉えていけばもっと良い子どもの情報も引き出せるのではないのでしょうか。

